

龍野城に天守閣を

来月25～27日に披露 城下町のシンボルに

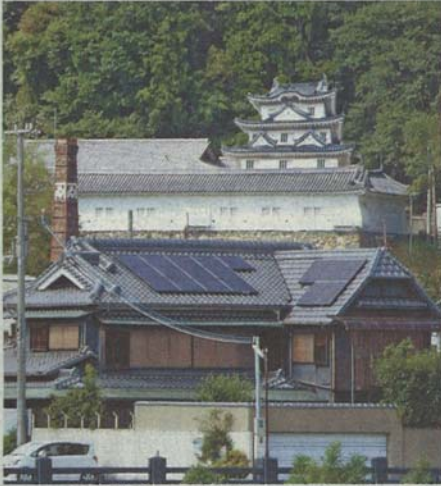
龍野商工会議所青年部は創立30周年を記念し、龍野城（たつの市龍野町上霞城）に、江戸時代には建てられることがなかった天守閣を建設する計画を進めている。天守閣は発泡スチロール製で今月下旬から「城普請」を始め、11月25～27日に城外から「幻の天守閣」を築しめる。同青年部は「観光客に龍野城の存在を知ってほしい。元気な城下町づくりを推進するシンボルになれば」と話している。

商議所青年部

同青年部によると、江戸時代初期には京極氏が龍野城主だったが、その後幕府領となり城は荒れ果てたという。寛文12（1672）年に脇坂安政が信州飯田から龍野に移って龍野城を再建。ただ当時は太平の世で、脇坂氏も外様大名だったことから天守閣をつくることはなかったという。

同青年部は「龍野から笑顔を発信しよう」をコンセプトに、市の協力も得て「幻の天守閣」の建設を企画。宇和島城（愛媛県宇和島市）の天守閣をモデルに、発泡スチロールやベニヤ板などを使って3層構造の天守閣（高さ15メートル、横9メートル、奥行き7・2メートル）を作る。制作費は約140万円。青年部のメンバー約40人が10月下旬から作業を開始。発泡スチロールを瓦風に特殊加工した屋根と白い壁材を南と東の面に組み立て、城外から立体的に見えるようにする。工事開始日から解体まで天守閣周辺は立ち入り禁止になる。

天守閣の公開期間中は、市内の独身男女がお見合いする婚活イベントやJＲ姫新線利用促進事業、1人暮らしの高齢者を中心にした城内寄席も同時開催。市内ではオータムフェスティバル（25～27日）も開かれることになっており、延べ約8万人の観光客が見込まれている。問い合わせは同青年部（☎0791・634141）。



龍野城「幻の天守閣」のイメージ図（龍野商工会議所青年部提供）